

行雲流水

No. 5 9 令和3年6月10日発行

授業は、「ともに創る」もの

校長 寒河江 正人

「ああ、緊張したあ〜。」

「口が震えましたあ。」

英語の研究授業の事後研究会に参加してくれた**3人の生徒の声**。

参加してくれたのは、青嶋信太朗くん、須藤真央さん、小貫柑奈さん。

質問を重ねるたびに、**どんどん受け答えが上手になっていましたよ**。

さすが3年生です。りっぱでした。

3人とも、ご協力ありがとうございました。

先生たちは、自分が「**この授業のやり方がいいだろう**」と考えて、工夫したその方法が、**「生徒にとって、本当に良かったのかどうか」を知りたいのです**。

「先生のひとりよがりになっていなかったかなあ？」

「生徒が、わかった・できた・もっとやりたいと思えたかなあ？」

「さらにもっといい方法は、ないのかなあ？」

授業を受けた「**生徒の生の声で聴いて検証すること**」が、**一番大切だ**と先生たちは考えています。

授業は、先生だけではできません。

先生と生徒、生徒と生徒、みんなで創り上げるものなのです。

門脇明人先生の授業を参観した先生方が、3人に質問を投げかけました。

「今日の授業でやること（課題）が、わかりましたか？」

「今日の授業で、ワクワクしたところはどこですか？」

「今日の授業で、一番考えた場面はどこですか？」

「どんなサポートがあればよかったですか？」などなど。

今週は、「**数学・社会・理科・美術の研究授業**」が行われます。

教育実習生3人の授業も、今週末までとなりました。

それでは、今週もよろしくお願いします。